No.175　2026.10.31（令和8年）　福島県西会津町議会　発行

にしあいづ議会だより

目　次

P2～3　白熱！ジビエ関連予算
P4～5　家計簿で見る町の決算
P6～8　ココが聞きたい！
P10～20　町政を問う（一般質問）
P21　議会を傍聴した高校生の声
P22～23　常任委員会報告
P24　町からの回答
P25　特別委員会報告
P26　この人にインタビュー



（写真：左から雅樂川（うたがわ） 陽介（ようすけ）さん・桜都（おと）さん・朔都（さくと）さん・舞（まい）さん・由美子（ゆみこ）さん・正明（まさあき）さん

令和８年９月定例会　開催期間　令和８年９月４日～15日

金額は千円単位以下切り捨てて表示しています

予算で賛否

反対2人・賛成2人が討論
補正予算案は賛成多数で可決

ジビエ関連予算をめぐる討論

4人の議員が討論を行いました。

反対討論

より良い事業にするため、今一度検証を



渡部 佳菜子 議員

ジビエ利活用の必要性は認めるが、施設規模や建設費の見積額、維持管理費など、まだ確認すべき点がある。より小規模な施設や段階的な整備も含めて比較・検証し、持続可能な事業とするため、今一度十分な検証が必要と考え、反対する。

反対討論

規模・事業費を示してから次の段階へ



仲川 久人 議員

住民生活に必要な予算が含まれていることは認めるが、ジビエ加工施設については、施設規模や建設費の見積額が示されないまま、調査測量に進むことは危険である。基本構想や予算の目安を示し、十分な検討と説明を行った上で、次の段階へ進むべきと考え、反対する。

賛成討論

西会津の自然を、もう一度世界に誇れる町へ



三留 正義 議員

今回の測量は、計画を具体化していくための一つのステップ。ジビエだけでなく、放射能検査などの取組を通じて、西会津の水や緑、山の豊かさを改めて発信する機会にもなる。「自然も人も健康的な町」として、もう一度誇れる西会津につながると考え、賛成する。

賛成討論

成功させるため、議会で活発な議論を



武藤 道廣 議員

鳥獣被害は生産者の耕作意欲の低下や離農などにもつながる。捕獲した鳥獣の活用は、料理や特産品の開発、観光・関係人口の創出など地域経済の活性化も期待できる。現在は地盤や環境などを確認する調査段階であり、今後も議会がチェックしながら、事業を成功させるために活発に議論すべきと考え、賛成する。

三留	猪俣	青木	武藤
○	△	○	○

伊藤議長は採決に加わっていません。

賛成	反対	棄権	
7人	2人	2人	賛成多数で可決

ココに注目！議会トピックス！

議論白熱！ジビエ関連

令和8年度 一般会計補正予算（第3次）の概要

6億1100万円を増額

主な内容

1 普通交付税の決定及び令和7年度繰越金の確定に伴う歳入の追加

国からの普通交付税の決定や、令和７年度繰越金の確定に伴う歳入の追加です。



2 ７月の豪雨災害に係る復旧事業費

７月の豪雨により被災した道路や河川などの復旧に係る経費です。



3 ジビエ食肉処理加工施設測量等業務委託料　など

ジビエ食肉処理加工施設の整備に向けた測量等業務委託料のほか、各種事業費が計上されています。



今回の焦点

ジビエ食肉処理加工施設測量等業務委託料

553万円

ジビエ食肉処理加工施設の整備に向けた測量の経費を計上。この予算をめぐり、施設整備の進め方や事業の将来性などについて、賛成・反対双方から討論が行われました。

（※関連記事は８ページ）

採決結果（議員別）

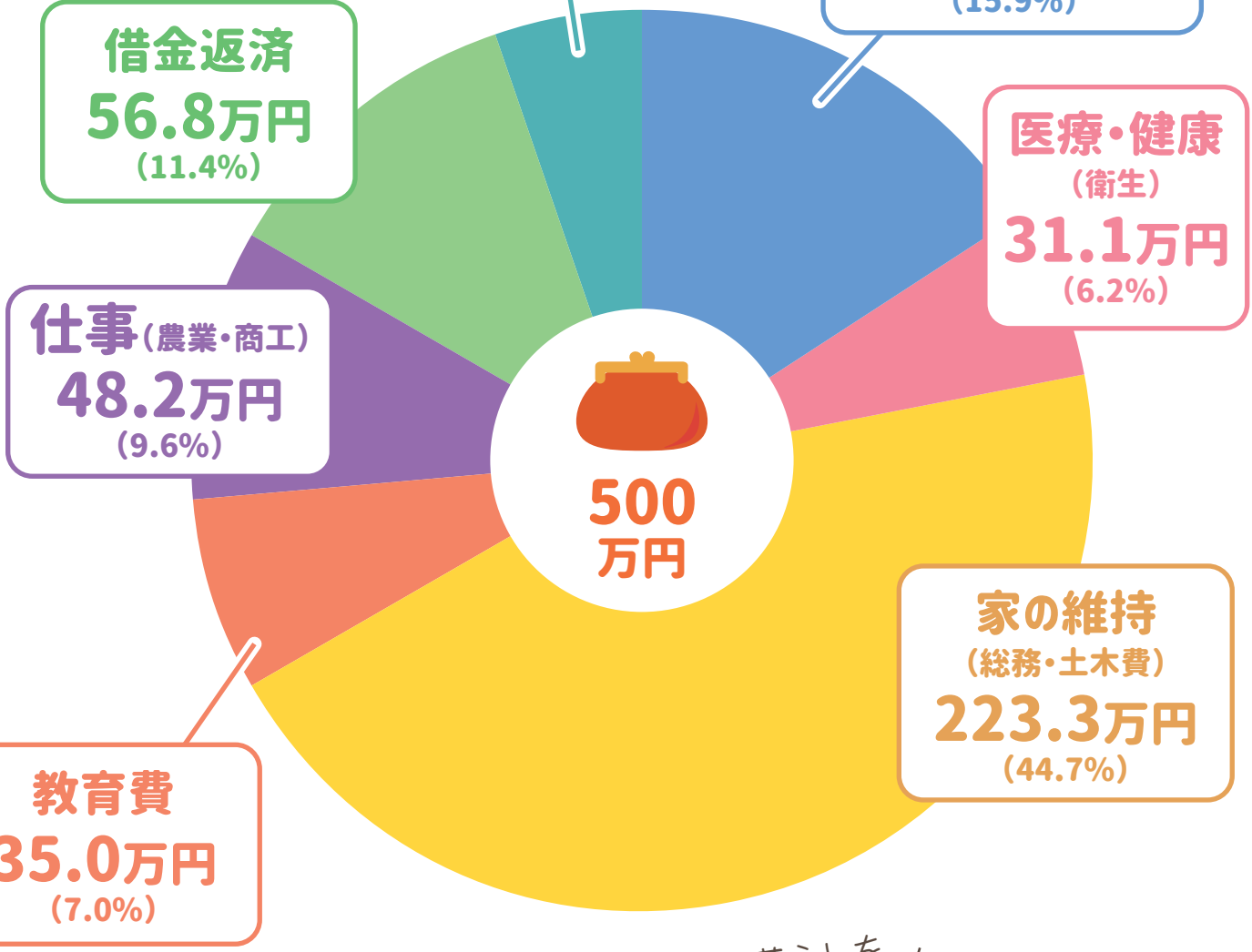
渡部	仲川	長谷川	上野	小林	荒海	秦	伊藤
×	×	○	○	△	○	○	－

○は賛成、×は反対、△は棄権、

西会津町の令和7年度決算を500万円の家計に例えてみました！

支出

合計500万円（歳入73億6002万円）



- **もしもの備え**（災害・消防）26.3万円（5.3%）
- **生活費**（福祉・子育て）79.3万円（15.9%）
- **医療・健康**（衛生）31.1万円（6.2%）
- **家の維持**（総務・土木費）223.3万円（44.7%）
- **教育費** 35.0万円（7.0%）
- **仕事**（農業・商工）48.2万円（9.6%）
- **借金返済** 56.8万円（11.4%）

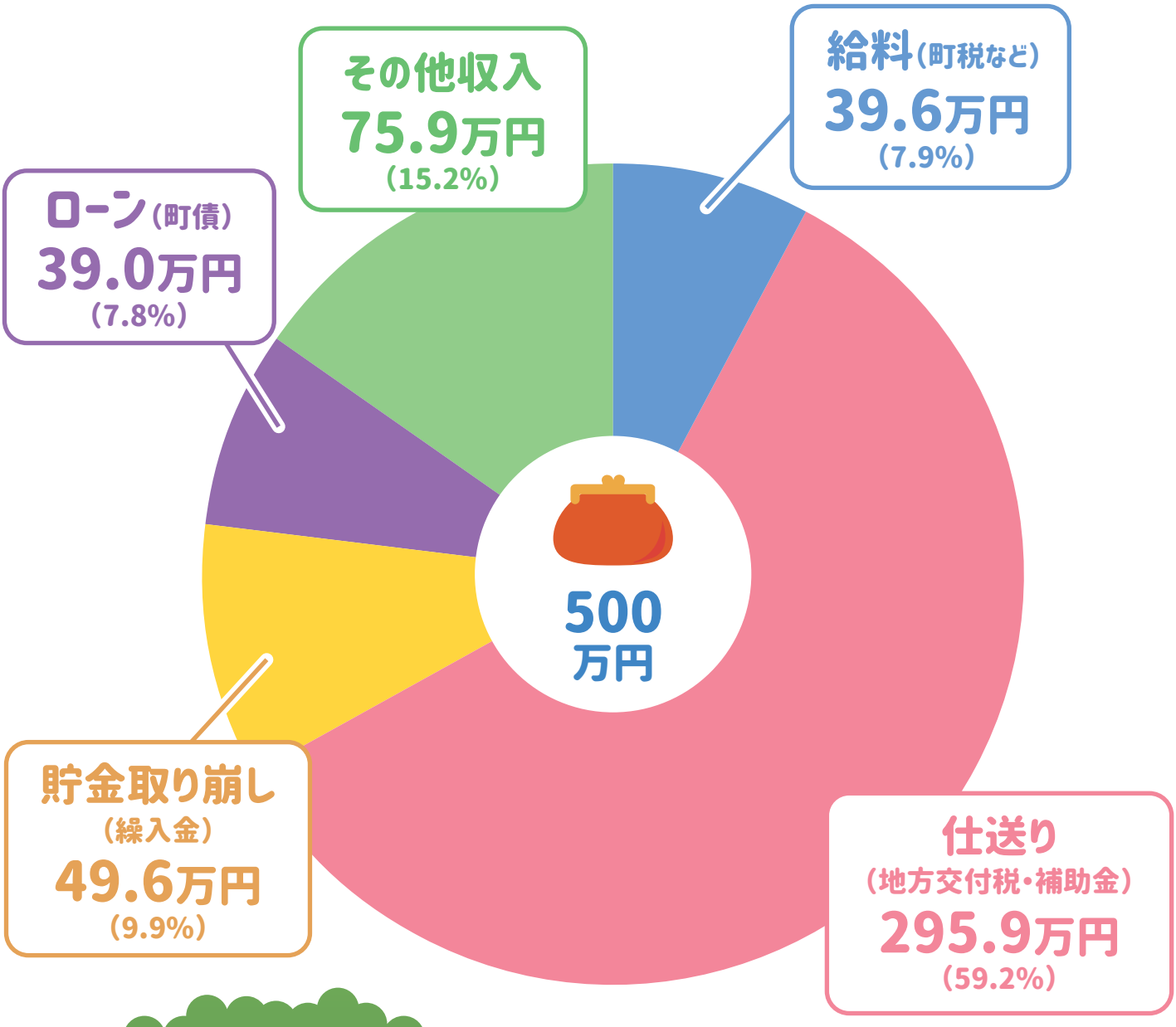
ものの、
家計のやりくりをしています。

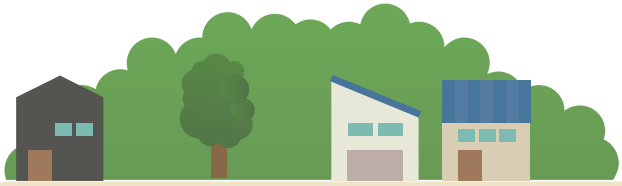
みんなの暮らしを支える町の家計

こゆりちゃん家の家計簿

収入

合計 500万円（歳入76億9185万円）





令和７年度のこゆりちゃん家は、給料（町税）が、わずかに増えた
全体の収入は減少しました。特に借金（町債）を減らしたことで、

ココが聞きたい！《議員が注目したポイント》

令和7年度一般会計決算の特徴

町の財政はどうなの？



歳入総額 76億9185万9千円（前年度比0・7%増）

歳出総額 73億6002万1千円（前年度比0・5%増）

人口減少が続く中で、財政規模を前年度並みに維持しつつ、約3億3千万円の黒字を確保した財政運営と議会は判断しました。一方で、財政の柔軟性を示す「経常収支比率」が90%前後と高い水準で推移しています。

経常収支比率が90%を超えているということは、町が新しい施策や、突発的な災害対策などに自由に使えるお金が「残り1割程度」しかなく、財政が硬直化しやすいことが最大の課題です。

決算全体への質疑

問 **令和7年度に実施された主な事業内容と決算に対する町の評価は。**

答 7年度の特徴的な事業としては、温泉健康センター源泉に係る事業と施設整備、役場庁舎非常用発電設備整備事業、学校給食無償化事業など、制度的に繰り越した事業を除き予定した事業は概ね実施できたと考えています。

問 **調査委託料や指定管理委託料など決算額に占める割合は。**

答 委託料については13億2345万5千円で決算額全体の約18%となります。

こゆりちゃんの豆知識

経常収支比率ってなあに？

町に毎年入るお金のうち、人件費や借金の返済など、毎年必要な支出に使われる割合です。

この割合が高いほど、新しい取り組みに使えるお金の余裕が少なくなる傾向があります。



各事業への質疑

《固定資産税》



問 **固定資産税の増加の要因は。**

答 新築住宅の増加によるものと考えています。

問 **未登記建物による税収への影響は。**

答 対象の物件があれば調査に努めていきます。

《ふるさと応援寄附金》

問 **ふるさと応援寄附金の大幅減額の要因は。**

答 ふるさと応援寄附金での米の返礼品に対する需要が低下したことが原因と考えています。

問 **最終的に町としていくら使えますか。**

答 寄付総額1億8628万6千円で経費が1億1822万6千円となり、約6723万9千円ほどが町の一般財源として利用できます。



令和8年度補正予算第3次
6億1088万1千円増額

〈農業公社支援事業費〉

問 **事業費1059万1千円の財源と内訳は。**

答 支援専門員に係る報酬が171万6千円、トラクター購入費が568万9千円、公社団体育成補助金300万円です。財源構成は、地方債560万円、一般財源で499万1千円です。



〈防火水槽新設事業〉

問 **消火栓を含めた消防水利の充足率は。**

答 本町における充足率は96・8％となります。

〈給食センター蒸気配管更新工事〉

問 **設備の想定耐用年数は。**

答 今回交換した設備は24年経過しています。想定される耐用年数は概ね20年程度と想定しています。

〈工業団地造成事業特別会計〉

問 **促進に対する情報発信の評価検証は。**

答 ホームページでの情報発信と県との連携により取り組んでいます。今後は、工業団地の優位性などを紹介し興味のある事業者へ発信していきます。

問 **県に貸出ししている土砂置き場は利用料金が発生しているのか。**

答 県の事業なので無償で貸出ししています。

〈住宅団地造成事業特別会計〉

問 **情報発信の手段に問題はないのか。**

答 販売促進の方法は、不動産フェスティバル、新聞広告、移住イベントで情報提供を行っています。現在取り組んでいる方法の検証を進め、次年度に向け取り組んでいきます。



問 **災害復旧工事の財源と復旧箇所は。**

答 災害復旧事業債7580万円、県災害復旧補助金で約1億1385万円となります。災害復旧箇所については、農地4箇所、施設7箇所となります。その他に林道岩井沢楢木平線については、緊急防災・減災事業債を利用して対応します。



問 **道路舗装工事費の減額要因は。**

答 国の事業予算調整により減額になります。

問 **補助事業に該当しなかった災害復旧工事については、どう対応するのか。**

答 職員が現場を確認してバックホーなど必要な資材を提供して、自治区で対応ができるようにしていきます。

問 **中央エリア活性化プロジェクトアドバイザー事業費の内容は。**

答 町総合計画の中で、地区の再生・活性化や公共複合施設の整備検討を具現化するプロジェクト設置に係る費用になります。

〈ジビエ食肉処理加工施設調査測量費〉

問　敷地測量と地質調査の費用内訳と本予算は、調査のための予算だと理解してよいのか。

答　ジビエ食肉処理加工施設測量等業務委託料の553万1千円の内訳ですが、地質調査200万円、敷地の調査測量委託料で353万8千円です。今後、実施設計を進めるにあたって必要な調査になります。

問　候補地の住民に対して説明会を実施したのか。

答　地区役員の方へは、説明して理解を頂いています。今後、住民説明会を開催していきます。

問　事業総額の見通しはいつ頃になるのか。

答　実質的な財政負担も含め12月の議会までには提示できるようにすすめていきます。

問　施設の規模はどの位になるのか。

答　現時点での想定延床面積については、平屋建てで概ね370㎡から400㎡規模の建物を想定しています。

問　他に候補地の選定をしたのか。

答　現在、解体処理施設がある旧野沢中学校の敷地が適地と考え、他の候補地については検討していません。

問　調査測量から本設計までどの程度時間がかかると想定しているのか。

答　業者の方と打ち合わせをする中で、できるだけ早期に完了したいと考えています。



視察をしたジビエ食肉加工施設

財産の取得

〈ケーブルテレビデータ放送システム及び音防災システム〉

文字放送をデータ放送に一元化、更新により気象庁の気象情報データとの連携が可能。

〈ミニホイール除雪ローダー4t級1台〉

購入から23年以上経過し老朽化のため更新。

問　古い機械の処分と前倒し納入は可能か。

答　古い機械については売却とします。また、前倒し納入については、12月頃までに納入可能との事から本年度より稼動する予定です。

問　歩道の除雪作業に利用するのか。

答　狭い道路での使用になります。

〈小型歩行式除雪機3台〉

購入から1台が23年、2台が18年以上経過し老朽化しているため更新。

問　どこの地区に配置予定なのか。

答　経過年数や機械の状況などを精査しローテーションさせて配置計画を決めていきます。

問　落札率とプロポーザル方式によるメリットは。



答　落札率は90％。プロポーザル方式によるメリットでは、価格が安価であることと新しい機能の提案などがあります。

9月定例会 審議議案と結果

上程議案・概要・結果	結果
条例の改正	
認可地縁団体印鑑の登録及び証明に関する条例の改正	可決
語学指導を行う外国青年の給与等に関する条例の改正	可決
令和７年度決算	
一般会計歳入歳出決算	可決
工業団地造成事業特別会計歳入歳出決算	可決
住宅団地造成事業特別会計歳入歳出決算	可決
後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算	可決
国民健康保険特別会計歳入歳出決算	可決
介護保険特別会計歳入歳出決算	可決
簡易水道等事業会計剰余金の処分及び決算	可決
下水道事業会計剰余金の処分及び決算	可決
令和８年度補正予算	
一般会計補正予算（第３次）6億1088万1千円の増額 探究的な学び推進事業、災害復旧工事、ジビエ食肉処理加工施設測量事業などの追加によるもの	可決
国民健康保険特別会計補正予算（第１次）878万9千円の増額	可決
介護保険特別会計補正予算（第１次）4492万円の増額	可決
特別功労表彰者	
特別功労表彰者の決定につき同意を求めることについて　渡部晋さん（縄沢）が表彰	同意
特別功労表彰者の決定につき同意を求めることについて　田中英喜さん（６町内）が表彰	同意
財産の取得・財産の無償譲渡	
ケーブルテレビデータ放送システム及び音防災システム　　金額 1980万円	可決
ミニホイール除雪ローダ１台　　金額 973万5千円	可決
歩行式除雪機械３台　　金額 1052万7千円	可決
財産の無償譲渡について（旧奥川小学校学校林）	可決
財産の無償譲渡について（旧奥川中学校学校林）	可決
人事案件	
教育委員会委員の任命につき同意　髙橋　誠さん（柴崎）が再任	同意
陳情案件	
奥川地区の道路整備と早期完成に関する陳情	採択
奥川みらい交流館体育館へのエアコン設置に関する陳情	採択
奥川地区の携帯電話不感自治区の解消に関する陳情	採択
奥川地区へ移住定住促進住宅設置に関する陳情	採択
報告	
債権放棄について	報告
議会案	
事務検査に関する決議　（令和7年度決算において適正な徴収事務がされているか調査）	可決
臨時議会　7月23日	
デマンドバス運行条例改正	可決
一般会計補正予算（第2次）1179万8千円の増額　デマンドバス委託料変更など	可決
財産の取得（消防小型動力ポンプ付軽積載車２台）　金額 1833万4800円	可決

一般質問

町政を問う

ここが聞きたい　10人が登壇

一般質問各ページは、質問した議員本人の責任のもと、構成と執筆をお願いしています。

一般質問は９月７日から８日までの２日間行い、議員10人が登壇して、町政の課題などを問いただしました。

○秦　　貞継 議員（11ページ）
・西会津町の教育について

○渡部佳菜子 議員（12ページ）
・災害時に孤立する集落をつくらない防災体制について

○長谷川　正 議員（13ページ）
・ワイヤーメッシュ柵補助事業の進捗は

○三留　正義 議員（14ページ）
・令和７年度決算について
・学校教育現場における防犯対策について

○猪俣　常三 議員（15ページ）
・クマ被害防止対策と出没時の対応について
・老老介護の現状と課題について
・地元新酒を活用した活性化について

○荒海　正人 議員（16ページ）
・有害鳥獣対策について
・地域おこし協力隊事業について
・西会津高校の魅力化について

○上野恵美子 議員（17ページ）
・町民健診事業について
・特定地域づくり事業について

○青木　照夫 議員（18ページ）
・人口減少対策について
・森林環境の現状について

○小林　雅弘 議員（19ページ）
・新たな町づくりについて
・国民健康保険税の負担軽減を

○仲川　久人 議員（20ページ）
・飼い主のいない猫（野良猫）対策について

一般質問とは

一般質問とは、議員が町の事務の執行状況や将来の方向性について報告や説明を求め、町民のための適切な行政運営が進められているかをチェックするものです。

事前の通告に基づき質問

質問者は、議長の許可を得て事前に執行者に通告した内容に沿って質問することができます。

反問権

議会において、町長や執行部などが、議員の質問や質疑の趣旨が不明な場合などに、質問などを行った議員に問い直す権利です。

議事の運営について

一般質問の内容から外れた場合は、議長が止めに入ることがあります。

1時間以内なら何回でも質問可能

論点及び争点を明確にし、議論が深まるよう一問一答方式を採用しており、答弁を含めて1時間の時間内であれば何回でも質問することができます。

ひと言

学校・地域・保護者が一体となり、西会津町の豊かな自然を活かした人間力育成を。



秦（はた） 貞継（さだつぐ） 議員

学校教育

問 町における教育課題は 答 生きる力の育成です

問 町における教育課題をどうとらえていますか。

答 教育長

人口減少、少子高齢化、生成ＡＩなど技術革新の急激な進展や変化の激しい社会に対応できる「生きる力」の育成が課題です。具体的には知・徳・体のバランスをとりながら、自立心や探究心、情報化社会やグローバル化に対応する能力を養い、多様性や包摂性を重視した人間関係を培う人材を育成することが重要であると捉えています。

問 教育現場の課題解決に向け、具体的な検討は。

答 教育長

小中学校と教育委員会が緊密な連携を図りながら、一体となって課題解決に取り組んでいるところです。

問 教育長の考える教育理念と、それを実行する具体策は。

答 教育長

『「作る学び」でケアと創造性を育てる』です。具体的には周りの人と協力しながら、自ら主体的に課題を解決できる人材育成です。

問 次期学習指導要領への町の考えは。

答 教育長

次期学習指導要領では主体的・対話的で深い学びの深化、学校裁量で授業時数を柔軟に組める仕組みが検討されています。町では「質の高い探究的な学び」の先行実施などに取り組みます。

問 「人間力」の重要性と育成についてどのような認識ですか。

答 教育長

人間力（自己形成力）を高めるためには、目標に向かって感情をコントロールし、粘り強く学ぶ力、多様な他者と共感し、合意形成や協働を進める力、公共心を持ち、社会の課題に関わろうとする責任感などが必要と認識しています。

問 教育が町に及ぼす影響は。

答 教育長

町で学び育った子ども達が、将来、町に戻り活躍していただくことが町を持続可能に発展させるカギとなります。



ふるさとの自然に囲まれた体験学習の中で人間力育成を。

ひと言

災害時に孤立する集落をつくらないためには、日頃から地域で顔の見える関係を築き、備えと助け合いの力を高めることが大切です。



渡部佳菜子（わたなべかなこ） 議員

防災

問 孤立時の備蓄と輸送の体制は
答 分散備蓄や緊急ヘリ輸送で対応

問 集落における防災体制は。

答 町長

町は、自主防災組織の設立や地区防災計画の策定、防災訓練、資機材整備を支援しており、現在16組織が結成されています。

問 孤立時の備蓄と輸送は。

答 町長

5か所に食料や飲料水、毛布などを分散備蓄し、奥川みらい交流館と旧弥平四郎分校には発電機・燃料も備えています。また、21の企業などと協定を結び、孤立時はヘリコプターなどで緊急物資や医薬品、医師などを搬送する体制を整えています。

問 要支援者の避難計画は。

答 福祉介護課長

避難行動要支援者は本年3月現在153人です。個別避難計画の作成実績はありませんが、簡易版の名簿を活用し、民生委員を中心に安否確認や避難誘導に役立てています。今後も計画作成を含め、支援に取り組みます。

問 学校での備えと防災教育は。

答 学校教育課長

アレルギー対応の非常食を児童・生徒1人あたり、2食分備蓄し、避難訓練を小学校で年3回、中学校で年2回実施しています。こども園を含む合同引き渡し訓練も行っています。

問 情報伝達と地域の備えは。

答 町長

防災行政無線、町公式LINE、福島県防災アプリ、ヤフー防災、ケーブルテレビなどで情報を発信します。防災マップの更新を予定し、全戸配布や説明会で周知するとともに、自助・共助の意識を高めます。

問 ケーブルテレビによる防災啓発は。

答 町長

消防行事や各団体の避難訓練などのニュース番組を通して啓発しています。また、喜多方広域消防による防災、火災予防、救急に関する啓発を定期的に行っています。

問 地域の防災力を高めるには。

答 町長

町総合訓練への参加や、自治会・サロンからの要請に応じた防災説明会を行っています。防災マップを使った避難経路の確認、非常持ち出し品や備蓄品、停電対策についても周知しています。



もしものときに備えて、家庭でもできる準備を

ひと言

ワイヤーメッシュ柵、町の期待を背負ってる！
有害鳥獣対策の最後の望みである！



長谷川（はせがわ）　正（ただし）　議員

有害鳥獣対策

問 ワイヤーメッシュ柵事業の進捗は
答 7月に事業着手できたところです

問 昨年度と今年度の申請状況は。

答 町長
昨年度は1件の申請があり、今年度事業実施に向けて進めています。今年度は複数の自治区から相談があり現在、調整を行っています。

問 ワイヤーメッシュ柵の有効性をどう捉えているか。

答 町長
電気柵とワイヤーメッシュ柵を適材適所で組み合わせたハイブリッド型が有効と考えます。

問 ワイヤーメッシュ柵事業の流れと進捗は。

答 町長
本事業は、会津北部地域鳥獣害防止広域対策協議会の事業です。

昨年9月及び本年2月に県から補助金の要望量調査があり、4月に要望額どおりの内示を受けました。その後、「交付決定前着手届」を提出し7月に事業着手したところです。

問 申請者への連絡、周知については。

答 町長
事前相談から申請、事業着手に至る過程において、設置ルートの協議や補助金に係るスケジュールなどの情報を適時適切に説明しています。

問 補助事業を受けるための周知の取り組みは。

答 町長
今年度整備するワイヤーメッシュ柵設置に、希望者を対象に現地で見学・説明会を開催する予定です。その後、設置を希望する自治区などと協議をし、調整が整えば次年度以降の国庫補助への要望につなげていきたいと考えています。

問 ワイヤーメッシュ柵補助事業を今後、さらに充実させる考えは。

答 町長
ワイヤーメッシュ柵と電気柵のそれぞれの特性を見極めた上で、対象となる農地の場所や面積、防ぎたい動物の種類、設置費用、設置労力、管理の負担、さらに雪の影響などについて、設置を希望する集落や生産者と十分に協議を行い、適切な防止柵の選定及び設置支援を図り、適切な被害防止策を進めていきます。



到着したワイヤーメッシュ柵

ひと言

町の暮らしの安心と未来の財政を守るため、必要な点を質問しました。



三留（みとめ） 正義（まさよし） 議員

令和7年度決算

問 一般財源をどのように確保するのか

答 寄付金などの確保に努める

問 **令和7年度決算を見ると、歳入の伸びが鈍化し、一般財源が減少しています。特に寄附金の減少が大きく、財源の確保に一つの課題が見えます。今後、町として財源をどのように確保していくのか。**

答 総務課長

一般財源の減少については、ふるさと応援寄附金の減少が大きな要因となっています。ふるさと応援寄附金については、令和7年度に初めて減額となりました。その要因としては、主力の返礼品である「米」の価格の高止まりから、寄付金額にお得感が無くなったことによるものです。ふるさと応援寄附金制度は、今後も安定的に財源を確保できるように、新商品の投入によるふるさと応援寄附金の増額や、事務事業の見直しなどにより一般財源の確保に努めます。

問 **経常収支比率が90・6％と上昇し、義務的経費の増加が続いています。政策的経費をどう確保していくのか。**

答 総務課長

経常収支比率は、一般財源ベースでの経常的な歳出の経常的な歳入に対する割合です。財政構造の弾力性を示す指標であり、令和7年度決算では前年度より0・5％増加しました。要因は、国を挙げての賃上げなどに伴う人件費の増、物価高騰対策による扶助費の増など義務的経費の増加が要因の一つとなっています。政策的経費の確保については、近年、人件費をはじめとした義務的経費は増加しており、削減は厳しいものと認識しています。町では、そのような中においても、国や県の動向をみながら、補助金や交付金、ふるさと応援寄附金、公共施設整備等基金への積み立て、交付税算入の有利な地方債の活用など、財源確保に努めます。



一般財源の安定した確保が望まれる

ひと言

人の住む生活圏内に侵入するクマから
人の生命を守る体制づくりは、
安全安心な日々を送るためにも大事。



猪俣（いのまた） 常三（つねぞう） 議員

老老介護

問 住み慣れた地域で暮らしていくには
答 介護する人される人に寄り添う

問 介護への支援体制は。

答 町長

町では、介護が必要になったとしても、可能な限り本人や家族の思いが尊重され、住み慣れた地域で暮らしていけるように、基盤となる介護サービスなどの充実を図るとともに、多様化するニーズに対応していくために地域包括ケアシステムの進化と推進に努めていきます。老老介護につきましては、その状態を「大変」と画一的に判断することなく、介護する人、介護される人の双方に寄り添い、医療・介護にとどまらず多職種・他機関が互恵的に連携し、公的サービスに加えて地域の支え合い・助け合いによる支援も組み合わせて対応してきたところです。

問 危惧する今後の老老介護の支援は。

答 町長

在宅での介護が困難となった場合の受け皿として、短期入所を含む入所施設のベッド数の充足に加え、在宅サービスや相談支援体制の強化に努めており、一方で、老老介護に陥らないように高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業として取り組んできました。

クマ対策

問 クマ被害の未然防止は
答 クマ鈴携行や外出時注意喚起など

問 クマによる被害防止対策は。

答 町長

町では、クマによる被害防止対策として、山に入る際のクマ鈴の携行や早朝・夜間の外出などの注意喚起、クマと遭遇した時の対処方や、住宅や集落周辺へのエサとなる誘引物を捨てないことなどについて、チラシやケーブルテレビ、町ホームページ、町公式ＬＩＮＥにより呼びかけています。

問 庁内における情報共有など初動体制は。

答 町長

住民や警察などからクマの出没情報が寄せられた際は鳥獣対策専門員などが迅速に現場へ急行し状況確認を行います。さらに被害発生の危険性などを勘案し、必要に応じ鳥獣被害対策実施隊へ出動を要請する体制を整えています。

問 警察や鳥獣対策関係者、自治区などとの連携は。

答 町長

学校や公共施設、福祉施設、住宅などの周辺で出没が確認された場合、各施設管理者や自治区長へ速やかに情報提供を行っています。さらに、当該集落への注意喚起通じチラシを配布するほか、集落内の防災行政無線を通じて警戒の呼びかけを行っています。



クマが小学校の裏側の畑に出没（小学校は右・中学校は左）付近に子どもこゆり園があります。

ひと言

鳥獣対策の根本は地域環境を管理することです。集落も巻き込んだ取り組みに発展させていくことが重要です。



荒海（あらうみ）　正人（まさと）　議員

鳥獣対策

問 果樹木伐採事業の拡大を
答 事業継続について検討する

問 **環境を管理し、鳥獣を集落に寄せ付けない対策に向けて「集落環境診断」を推進していく必要があると考えますが、町の見解は。**

答 **農林振興課長**

集落環境診断の実施については、要望のあった集落や鳥獣の出没が多い集落に出向き、出没や被害箇所の洗い出し、その対策などについて話し合いを実施しています。今後も様々な機会を捉えて周知を図っていきます。

問 **町が取り組む果樹木伐採事業の拡大を検討すべきでは。**

答 **農林振興課長**

これまで23の自治区で300本以上の果樹木を伐採し、集落周辺の伐採は一定程度進んでいると認識しています。今後も集落からの要望に応えられるよう、事業の継続について検討していきます。



集落環境診断の様子

地域おこし協力隊

問 今後の募集・採用の進め方は
答 連携強化や募集事業の充実を図る

問 **地域おこし協力隊事業において昨年度採用がありませんでした。今後の募集・採用について、どのように進めていきますか。**

答 **町長**

地域おこし協力隊事業は、各課にまたがることから、今年度から事業連携のための会議を新たに設置し、意識共有を図りながら進めていきます。

また、募集イベントへの参加、お試し協力隊事業の内容充実など人材確保に努めていきます。

問 **今後の募集の在り方として「一本釣り」の人材獲得を強化していくべきでは。**

答 **企画情報課長**

例えば、福島大学との連携事業や、お試し協力隊の事業強化などを通じて、関係性を築きながら採用などにもつながるよう対応しています。



おためし地域おこし協力隊ツアーの様子

ひと言

町民の「自らの体は自ら守る」を
後押しするために眠れる予算の有効活用を！



上野恵美子（うえのえみこ） 議員

町民健診事業

問 人間ドック助成事業の拡充は

答 予算未執行分の有効活用に努める

問 令和8年度「人間ドック助成事業」の助成金交付者数と予算の執行率は。

答 健康増進課長
70名の予算に対して交付者数は44名、予算執行率62・9％です。

問 当初の見込み人数・予算規模と比較して、町民のニーズや使用状況をどのように分析していますか。

答 健康増進課長
一定の町民のニーズはあるものの、医療機関の受入れ枠との調整が課題です。

問 令和5年度より町独自の「人間ドック助成事業」を創設しましたが、本事業の意義をどのように捉えていますか。

答 健康増進課長
「特定健診」と「5大がん検診」では、発見しにくい疾患の早期発見がより可能になります。町民の自発的な予防行動を後押しする事業であると捉えています。

問 予算が40％近く執行されていませんが、事業の拡充を図り、予算を有効に活用するべきではありませんか。

答 健康増進課長
予算未執行分の有効活用に努めていきます。

特定地域づくり事業

問 事業の現状と課題は

答 派遣社員の確保が進んでいない

問 本町において、本事業に期待する成果は。

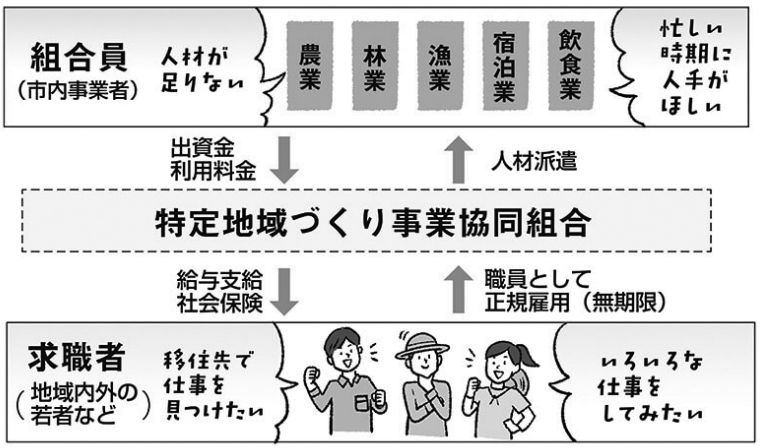
答 企画情報課長
人手不足の町内事業所への雇用を推進するとともに、地域に仕事を創り、移住・定住を推進していくことです。

問 現状と課題は。

答 企画情報課長
組合創立から2年が経過しますが、組合で雇用する派遣社員の確保が課題です。

問 県の3年間の支援が令和7年度で終了となっていますが、その後の対応は。

答 企画情報課長
今後、組合と協議します。



ひと言

人口減少対策は一丁目一番地！
率先した移住定住に取り組むべき。



青木（あおき）　照夫（てるお）議員

獣の出没原因

問 獣は何故里山に出没するのか
答 耕作放棄地の増加による

問 獣の出没は全国的に増加していますが、出没の原因をどう考えますか。

答 農林振興課長
人口減少や高齢化などで耕作放棄地が増加し、野生動物との境界線がなくなったことで、人里に出没するようになりました。

問 「林業アカデミーふくしま」で担い手を育成していますが、当町との関りはありますか。

答 農林振興課長
現在のところありません。

問 森林環境譲与税の使途を伺います。

答 農林振興課長
7年で1億80０万円が交付されており、意向調査、林政アドバイザー、ペレットなどに利用しています。

問 森林環境譲与税の利用率は55％にとどまっています。緩衝帯を整備することで獣の出没が減少するため、補助金を有効活用すべきではありませんか。

答 農林振興課長
森林所有者の意向調査や森林業務のデジタル化に取り組むことなどに時間を要しています。



人口減少対策

問 人口減少への対策は
答 移住定住施策の強化を図る

問 首都圏の若者の移住やシェアハウスなどが必要とされる時代ですが、人口減少対策をどのように考えますか。

答 企画情報課長
国や県の住宅補助（事業）を利用し住宅の取得や住宅改修などで「来て『にしあいづ』住宅取得事業補助金」で取り組んでもらえるように進めます。

問 埼玉・千葉・神奈川も首都圏です。首都圏移住者には条件付きとされていますが、町独自の補助金制度はできないのですか。

答 企画情報課長
補助金のメニューの見直しなど検討します。

問 首都圏で定年を迎えた町出身の元気な方がいます。故郷で集える場所として「シェアハウス」を求める声があります。終の棲家としての期待や人口減少抑制策にも繋がると思いますが、いかがですか。

答 企画情報課長
民家や空き家の利活用などを含め、移住定住に対応していきます。



西会津町にあるシェアハウス

ひと言

町の中心エリアの活性化だけでなく、
各地区の住民主体の活動をつなげ、
「新たな町づくり」の構想を。



小林（こばやし） 雅弘（まさひろ） 議員

新たな町づくり

問 新たな考えでまちの活性化を
答 西会津ならではの町づくりを検討

問 野沢、尾野本の「町の中心エリア」以外の地域について、どのような活性化策を考えていますか。

答 町長
具体的には、「こんな地区にしていきたい」という総合計画策定委員の皆さんの意見が実現されるよう進めていきます。

問 各地域の試みと住民主体の努力を活かし、単に町の中心の活性化だけではなく、新たな考えで町の活性化を構想してはどうですか。

答 町長
町として単に町の中心エリアの活性化にとどまらず、各地区のコミュニティの活力や関係人口を町の中心エリアの機能と結びつけながら「西会津ならではの町づくり」を検討していきます。

問 公民館機能を旧群岡中学校に移転してはどうですか。

答 町長
「新たな会議」で公民館機能を含めた施設整備などに関する具体的な検討を始めました。遊休施設の有効活用も検討します。



有効活用を待つ旧群岡中学校

国保税の負担軽減

問 国保税均等割を全額免除しては
答 町独自の減免は考えていない

問 国民健康保険税の均等割は子ども数が多い家庭ほど負担が増え、子育て支援策を重視している町の方針とも矛盾する制度と考えます。町はどう考えますか。

答 健康増進課長
現在の未就学児の5割軽減措置を、令和9年から高校生世代まで拡充されると考えています。子育て世帯の負担軽減が図られていると考えています。

問 高校生世代、均等割5割負担を全額免除してはどうですか。

答 健康増進課長
国からの通知によれば、「国保税について独自に減額できない」としています。町としては、町独自の減免の拡充は考えていません。

問 県内で独自に減免している自治体はありますか。

答 健康増進課長
二本松市、南相馬市、川俣町などです。



ひと言

この街の、小さな住民（ねこ）たちと一緒に生きていく。さくら耳は、地域で愛されている、しるしです!!



仲川（なかがわ）　久人（ひさと）　議員

野良猫対策

問 地域猫活動への町の支援は
答 関係機関と連携し対応していく

問 野良猫の実態把握と相談状況は。

答 町民税務課長

生息域が広範囲であり個体数など、その実態は把握していません。本年度5件の相談が寄せられています。

問 県の地域猫活動支援事業の利用状況と制度の周知は。

答 町民税務課長

地域猫活動は、自治区などが主体となり不妊・去勢を行い地域の生活環境を保全しつつ、猫の数を減らしていく取り組みです。本町も含め会津管内において本支援事業の利用はありません。周知については、相談に来られた方へ個別に行っていますが、今後は事業の詳細について広く周知に努めていきます。

問 具体的な方法は。

答 町民税務課長

ケーブルテレビや広報誌での発信、県支援センターの説明会などを通して周知していきます。



問 地域猫活動への町の支援は。

答 町民税務課長

地域猫活動支援事業のみならず、相談があった場合には、状況を伺い、現地を調査し、県動物愛護センターなど関係機関へつなぎ、連携して対応しています。

問 不妊・去勢の活動への対応策は。

答 町民税務課長

不妊・去勢は1万5千円から5万円程度の費用がかかります。また、捕獲にも罠などが必要となることから県や関係機関との連携を強化し、そのケースや状況に応じて対応していきます。

問 動物愛護センターへの搬送などに係る経費の補助、また、ふるさと応援寄附金やクラウドファンディングも含めて検討しては。

答 町民税務課長

ボランティア活動されている方々や県動物愛護センターなど関係機関と連携して対応していきます。



さくら耳（去勢済）のねこ



9月4日
議会初日

西高生が議会に来ました！

高校生９人が本会議を傍聴。
議会に対する素直な声を紹介します。

この日の本会議では、議長・委員長報告や町長の提案理由の説明などが行われました。

傍聴前の議会の知識

９人全員が「**あまり知らなかった**」「**ほとんど知らなかった**」

傍聴してみた感想

８人が「**あまり興味を持てなかった**」「**興味を持てなかった**」１人は「**とても興味深かった**」

政治・地域への関心

２人が「**少し思った**」７人は「**あまり思わない**」「**思わない**」

高校生の素直な声

・詳しい話が分からなくて理解がたいへん。議場が狭い感じがした。
・小学校や中学校の調査をして、施設の改善を考えていたのは良かった。
・議員が議会の前は笑顔、始まると真面目。
・ギスギスしているように感じた。
・高校の介護研修も取り上げ、地域資源を活かそうとしていた。
・機材や雰囲気がしっかりしていた。マイクの音が聞きやすかった。
・他県の災害の話をしていたが、町の除雪や道路も考えて欲しい。
・「あまり印象に残らなかった。」「とても良い経験になった。」

という声も。

議会の様子を分かりやすく伝えられる「議会だより」づくりにつなげていきます。

経済常任委員会報告

経済常任委員会において、町事業を調査する所管事務調査を7月24日と8月7日に実施しました。

町道向原1号線道路改良事業の進捗状況

【契約内容】

- **請負業者**：㈱飯豊建設
- **契約金額**：2420万円
- **工期**：令和8年7月1日～令和9年1月12日
- **工事内容**：全体延長330・0mのうち、本年度は118・0mを施工する。

■調査内容

視察時は着工直後の初期段階であり、準備工、施工ヤードの整備、および資材搬入が行われていた。提出された工程表に基づき、降雪期前の工事完成を目指した計画であることを確認した。地域住民からは、長年の悲願であった本工事の着工に対し、冬期の通行確保への強い期待が寄せられている。

■委員会の見解

本事業は、幅員の狭い道路による生活リスク解消という明確な課題に対し、適切な設計と管理がなされている。今後は、早期の全線完成を求めるとともに、冬期施工を含む工期であるため、気象条件を踏まえた厳格な工程管理と安全対策の徹底を求め、適正な執行を注視していく。



工事の説明を受ける様子

一般社団法人百松（農業経営体）の調査状況

■設立の背景と目的

松尾自治区では近年、耕作者の減少と高齢化が進み、農地保全と担い手確保が急務となっていた。この状況に対し、地域の担い手農家が協議を重ね、農地の集約・集積、効率的な農作業体系を確立、遊休農地の発生防止を目的として、令和6年1月に一般社団法人百松を設立した。

■運営体制と施設概要

- **耕作規模**：現在約19haを管理。将来的には自治区内の約50ha全ての引き受けを目指している。
- **設備**：国・町の補助事業を活用し、令和6年度にライスセンター建屋（事業費2810万円、補助率1／2）、機械設備（事業費2239万円、補助率1／4）、令和8年度は、大型トラクター導入の補助を申請している。

■現状の課題

- **労働力の確保**：将来的には、一般社団法人百松による農地直営管理への移行が考えられるが、2名体制では限界があり、生産管理を担う人材確保が急務である。
- **販路と営業**：現在は商社を通じた販売が中心であり、独自の販路開拓や営業を担う専門人材が不足している。
- **インフラ整備**：米の品質を維持するための貯蔵施設の必要性、作業効率向上のための農地基盤整備を求める。

■委員会の見解

一般社団法人百松は、地域農業の維持において重要な役割を果たしている。今後、発展していくためには、行政の支援を活用しつつも、自らが経営努力を積み重ね、自立した経営基盤を築いていくことが重要である。今後は、町の農業振興の牽引役としてさらなる活躍が期待される。集落営農が町全体に広がっていくことが望まれる。



「百松」視察の様子

総務常任委員会報告

総務常任委員会では、担当する事業や町が所有する施設について7月8日、15日、23日に調査を実施した。

1. 西会津小・中学校施設の老朽化と活用状況

■調査内容

西会津小学校は、落成から10年余りが経過している。校舎内には、課外活動や子育て支援機能も備えられている。

併設されている西会津中学校は、開校から約24年が経過しているため老朽化への対応が課題となっている。

■委員会の見解

西会津小学校については、適切な管理による教育環境が維持されている。空き教室などの活用方法について、今後導入される探究学習などに活かされるよう期待したい。

西会津中学校については、屋根や外壁、空調設備、照明設備、太陽光発電設備などに経年劣化が見受けられた。今後策定する長寿命化計画に基づき安全で快適な学習環境の確保が求められる。



施設老朽化状況視察

2. 介護職員初任者研修（西会津高校）

■調査内容

町では高校の魅力向上と介護人材確保を目的に、介護職員初任者研修を実施している。そこでは資格取得を目指せる取り組みを行っている。

■委員会の見解

介護施設の人材確保を目的に、西会津高校で介護職員初任者研修を実施している。そこでは生徒も研修に加わり、資格取得を目指せる取り組みを行っている。それは同時に地域の介護基盤維持につながる取り組みであることを確認した。今後は、介護分野の課題解決という視点にとどまらず、高校の魅力化につなげてほしい。

3. 教育長の教育方針

■調査内容（教育方針）

教育方針の柱として、ものづくりを通して未来を生きる力を育む「つくる学び」、安心して挑戦できる環境づくり「ケア」、試行錯誤を重ねながら新たな価値を創出する「創造性」を軸とした教育方針が示された。

また、自然や暮らし、人とのつながりなど、地域資源を活かした探究学習を推進するとともに、子どもたちが主体的に学び、地域と共に成長できる教育環境の充実を図る方針が示された。

■委員会の見解

教育長の方針は、町のこれまでの教育施策とも親和性が高いこと、また、知識だけでなく社会を生き抜く力を育む方針であることを確認した。さらに関係者との対話を重ね、方針の理解醸成に努めてほしい。



教育方針の説明を行う教育長

4. 公営塾

■調査内容

・公営塾の事業概要
・公営塾の授業視察

■委員会の見解

公営塾は、近隣自治体と同等の教育機会を無償で提供し、希望する進路の実現に向け基礎学力の向上を支援する取り組みとして評価できる。一方で、事業開始から2年目を迎え、受講率の減少や受講者が学力上位層に偏るなどの課題もみられた。



公営塾の授業風景

町への申し入れと回答

懇談会で寄せられた声を町へ届けました

５月の「町民と議会との懇談会」で寄せられた意見から、
４項目を町へ申し入れ、９月14日付で回答がありました。

1 町民バス野沢坂下線のダイヤ見直し

申し入れ　部活動終了後の待ち時間解消に向け、ダイヤの見直しを。

町の回答　高校の意向やJR磐越西線との接続を考慮し、
必要に応じて交通体系全体を見直す中で、
可能な改善を図ります。



2 町有施設や飲食店での学割制度

申し入れ　町の施設や飲食店を利用しやすい
学割制度の創設を。

町の回答　公園施設など一部の料金は軽減されています。
要望は商工会や町飲食店組合などにつないでいきます。



3 移住定住促進住宅の整備促進

申し入れ　野沢地区に限らず、幅広い地区での住宅整備の検討を。

町の回答　各地区の住宅需要や将来の活用見通しを
踏まえ、中長期的な視点で、まちづくりとともに
進める必要があると考えています。



4 ミネラル野菜の運搬支援

申し入れ　町民バスを活用し、「ミネラル野菜の家」などへ
の運搬支援を。

町の回答　週２回の収集出荷を継続。普及会と協議し、
生産者の負担を軽くできるよう、その都度
検討して対応します。



町民の声を、これからのまちづくりへ

委員会で進む、議会の見直し

議会活性化と議員定数等の調査についてお知らせします

９月９日の本会議散会後、特別委員会が開かれました。
検討された内容と、委員会の活動を紹介します。

① 議会活性化特別委員会



デジタル分科会

ペーパーレス化とオンライン会議の導入を提案。
試行運用を行い、オンライン会議の実施要綱を作成する方向で検討します。

議員の資質向上・調査能力向上分科会

議員の学びを支える制度として、政務活動費の検討を提案。適切な制度運用と、活動の検証を重ねることが大切と整理しました。

議会基本条例評価・検討分科会

現行条例に大きな変更は不要との報告。今後も各分科会の検討を見ながら、必要に応じて取り入れていくことを確認しました。

② 議員定数等調査特別委員会

9月25日　研修会を開催

福島大学の垣見隆禎教授を招き、「憲法、地方自治法にみる自治体議会の役割」を学びました。
首長と議会の関係や、議会が果たす役割について理解を深めました。

次回の委員会：10月28日

お知らせ 広報広聴常任委員会からのお知らせ

「町民と議会との懇談会」を12月定例会前に開催します。
詳しい日程は、後日お知らせします。皆さんの声をぜひお聞かせください。

町民の皆さんと議会が話せる機会をつくります

にしあいづ議会だより
No. 175
発行　福島県西会津町議会
編集　広報広聴常任委員会

この人にインタビュー

自然と家族の温かさに包まれる雅樂川家族に注目！

―西会津での暮らしは―

高校卒業後、一度町を離れましたが、二人目の子どもの誕生を機に家族で移住し、両親と暮らしています。豊かな自然や穏やかな環境に加え、町の人たちの温かさがこの町の魅力です。子どもたちが自然の中でのびのびと育ち、地域の方との関わりの中で成長できることをうれしく感じています。

―休日の過ごし方は―

天気の良い日は公園へ出かけます。娘はさゆり公園がお気に入りで、虫取りや自宅近くの散歩も楽しんでいます。祖父の田んぼで米づくりの様子を見るのも好きなようです。休日の夜に家族でロータスインの温泉へ行くことも、我が家の楽しみのひとつです。

―これからの町に期待することは―

お年寄りから子どもまで、誰もが安心して住み続けられる町であってほしいです。西会津らしい人の温かさや、地域で支え合う気持ちを大切にし、町を離れた人も帰ってきたときにほっとできる、いつまでも温かく迎えてくれる町であってほしいと思います。



家族み～んな仲良し!!

議会の動き

9月議会以降の議員研修の日程です。

●会津耶麻町村議会議員研修会
令和8年10月16日㈮
北塩原村
・研修テーマ
「磐梯山地域の多様な価値を地域振興へ」

●福島県町村議会議長会主催議員研修会
令和8年10月19日㈪
ビッグパレットふくしま
・研修テーマ
「地域課題の解決と町村議会～なりて確保を視野にいれて」

●喜多方広域管内3市町村議会議員研修会
令和8年11月24日㈫
北塩原村
・研修テーマ
「人口減少社会のまちづくりを考える（予定）」

●ジビエ利活用に関する研修会
令和8年12月定例会前4日間　山梨県など
・研修テーマ
「ジビエの利活用に関する知識の拡充」

●経済常任委員会
令和8年10月中旬
長野県
・研修テーマ
「ふるさと納税」
「有害鳥獣対策」
「ジビエ利活用」

●総務常任委員会
令和8年11月上旬
東北地方
・研修テーマ
「探究学習」
「高校魅力化」
「地域活性化」

〒969-4495　福島県耶麻郡西会津町野沢字下小屋上乙3308
☎0241(45)4537
e-mail gikai@town.nishiaizu.fukushima.jp

編集後記

私たち広報委員は、「あ～だ、こ～だ、こっちのほうがいい」と言いたい放題いいながら、議会だよりの編集をしています。「文章ってどう書いたらいいんだ。読んでもらえるんだ。」という疑問を解決するために、7月には、西会津中学校に行って、国語の授業を受け、基本的な文章の書き方を学んで来ました。町民のみなさん、ご期待ください。（小林）



編集委員（広報分科会）
分科会長　小林　雅弘
副分科会長　荒海　正人
委員　上野恵美子
委員　長谷川　正
委員　仲川　久人
委員　渡部佳菜子